

# memo

---

- 論文メモ
  - Satellite data, information, or knowledge? Critiquing how Arctic environmental NGOs derive meaning and power from imagery
    - <https://www.sciencedirect.com/science/article/pii/S2666378325000054>
    - 衛星画像はデータ、情報、知識にどうやってなっていくのか？的な内容
- 大学教員の日常生活における時空間構造を把握して、何を証明するの？
  - 知識生産において時空間がどのような影響をしているのかを証明する。
  - 具体的にどういった影響がそもそもあるの？
    - 大学にとどまり続けることで研究が進まないなど
    - 本当にそうか？
- 知識を生産するとはどういうことか？
  - 発見とは異なるのか？
- アクセシビリティの良し悪し関係なく、「移動をしない」ということに着目することの意義はあるのか？
  - 仮にアクセスが良くても、デジタル技術により「移動をしない」という選択肢が可能となった。
  - 例えば、職場から徒歩5分に家があっても、テレワークokなら家にいる人もいる。
  - もちろん完全に移動をしないということではなく、多目的に移動をすることが少なくなってきたのではないか？
    - 昔と今の人の移動の仕方について比較しなければ論証できない。
- 大学教員の裁量労働制の実態についてを証明したいのか？
  - 正直、そういうことをやりたい訳ではない。
  - というと？
    - 研究はどのタイミングで行われているのかを見たい。
    - それを見ることで何の意義があるの？
    - 分からない、、、
- デジタル技術によって、空間は解放されたといってもいい、だが大学教員の実態は学生の安全等の関係により大学に原則いなければならない。
  - ある意味では、縛られた（固定された）空間にいながらも研究はどうやって行われているのだろうかという解釈が出来る
  - 教育者という側面で空間は使われ、研究者として仕事をしている→この二重性！！これが面白いはず！
    - 同一の空間を、教育者として、研究者として、どのように使用しているのか？
    - これを行う意義は？
    - 一人の人間が1つの空間で2つの役割を持ち活動しているという解釈を提供できる
    - 同一の空間で複数の役割が混在する中で人々はこういった経験をするのかという卒論の考察にもつながる
    - 役割距離の話に近いことをやりたいが、では研究者として期待される演技、教育者として期待される演技とは何ですか？
      - 分からない、、、
    - しかも「同一の空間」といっても、教場と研究室では異なりますよね？
      - けれど、大学という一つの職場として括ることはできる！
- 研究者> 教育者ではなく、研究者=教育者という関係性でみるべきである

- 研究者ないし大学教員と機械（マシン）との関りは何？
  - いつどこで何の機械を使用しているのか？
  - それらの機械からデータおよび知識をどう移行させているのか？
- 知識はどこで生産される？
  - 果物はどこで生産される？→果樹園
  - スマホはどこで生産される？→工場
  - 知識はどこで生産される？→大学？
  - 地理的知識はどこで生産される？→大学？現地？
    - そもそも地理的知識とは何かを調べてみよう
- 地理的知識とは何か？
- やっぱりSTS関連に関心がある自分がある、、、、、どうしよう
- 機械と機械の時間地理学
  - 今やあらゆる空間に機械が溢れ、人と同じくらい重要な位置を占めている。
    - 研究等の活動においても各計測機器からパソコンに至るまで機械にあふれている。
    - そういった状況下で従来の時間地理学では人中心で研究が進められてきた。
    - しかし、時間地理学の側面の一つとして物理主義が挙げられ、すなわち人を物質の塊とみなすような考えである
  - 物理主義の視点で考えるのならば、当然に人だけでなく、モノも物質の塊である。
    - そのため、モノを対象とした時間地理学というものも特段珍しいものではないはずだ。
    - 人と人の時間地理学はあった、人とモノから怪しい
  - 実証系の分析としての案
    - トラジェクトリー解析を用いる
      - <https://qiita.com/tai-sei/items/416446261cd10d5a17ac>
      - <https://zenn.dev/labcode/books/66b81dd8f44b32/viewer/5hokbf-1>
  - 理論系の分析？としての案
    - アクターネットワーク理論
    - ポストヒューマン的な視座を取り入れた時間地理学の提案
      - 日常的なモノ・機械の相互関係を3つの制約で考えることはできるのか？
  - 研究活動対象にするのはどうか？
    - とくにフィールドワーク
- 科学技術・研究者関連のオープンデータ
  - [https://www.e-stat.go.jp/stat-search?page=1&bunya\\_l=11](https://www.e-stat.go.jp/stat-search?page=1&bunya_l=11)
    - [https://www.e-stat.go.jp/stat-search/database?page=1&toukei=00200543&bunya\\_l=11&tstat=000001032090](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/database?page=1&toukei=00200543&bunya_l=11&tstat=000001032090)
    - [https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400502&bunya\\_l=11&tstat=000001032299](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400502&bunya_l=11&tstat=000001032299)

#### 1. 主な調査結果

- **大学教員:** 総職務時間のうち研究活動の割合は32.2%、教育や医療を含む社会サービスを加えると36.7%。
- **博士課程在籍者:** 活動時間の84.6%を研究に費やし、その多くが論文作成に集中。
- **医局員:** 研究に充てる時間は16.9%。社会サービスを含めると19.7%。
- **その他研究員:** 研究活動の割合は71.0%、社会サービスを含めると75.9%。

#### 2. 課題と改善策

- **研究時間のばらつき:** 教育負担や医療業務が研究時間を圧迫。

- **データ収集の改善**: 特に医局員とその他研究員で回収率が低いため、調査手法の向上が必要。
- **モニタリングの強化**: 定期的なフォロー調査を実施して変化を捉える。
- [https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400504&bunya\\_l=11&tstat=000001127235](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400504&bunya_l=11&tstat=000001127235)
- [https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400504&bunya\\_l=11&tstat=000001127235](https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400504&bunya_l=11&tstat=000001127235)
  - 調査対象機関 1,187 のうち、ポスドクター等が在籍していたのは 275 機関。
  - 2021年度のポスドクター等の延べ人数は 13,657 人で、2018年度の15,590人から減少。
    - 減少の原因：COVID-19 の影響による移動抑制、そしてポスドクター以外のキャリアパスの多様化。
  - 平均年齢：38.0歳（前回調査の37.5歳より上昇）。
  - 男女比：7：3。
  - 分野割合：理学が約4割で最多、次に工学（約2割）。
- 研究時間と裁量労働制の矛盾
  - 裁量労働制：時間的に自由なので調整しやすい！
  - 研究時間：現在もひっ迫中
  - 時間は自由に使えるのに研究時間はない
    - 意外とおかしい点なような気がする
    - 自己管理不足というような結論になり得るのかは注意したい
  - **研究の地理は可能？**
  - フィールド調査に制限が掛かっている
- リヴィングストンの『科学の地理学』はDIKWモデルの視点がない、もしくは知識に統一している
  - 知識までの変遷過程を見るのはどうか？